



現代女性とキャリア連携専攻委員会

2010年度 推薦図書リスト



①書 名：彼女たちの類人猿—グドール、フォッシー、ガルディカス—

著 者：サイ・モンゴメリー著 羽田節子訳

発 行：平凡社，1993年刊

所 蔵：図書館目白，図書館西生田 請求記号：489.9-Mon

福本俊先生（児童学科）の推薦のことば：アフリカのケニアで最初の人類の化石を捜し求め続けていたルイス・リーキーが3人の若手の女性研究を見出した。グドール、フォッシー、ガルディカスである。彼は、これら3人に順に、チンパンジー、ゴリラ、オランウータンを研究対象として指定したのであった。彼らの研究の姿勢は、当時のやり方とは反対に、対象の類人猿と生活を共にするやり方であった。丁度、ローレンツ・K. 流に言えば、「農夫型」の観察であった。しかも、このやり方によって、数多くの新しい発見がもたらされたのである。「類人猿の観察には男性よりも女性の方が向いている」とのリーキーの予想が見事に的中したのである。



②書 名：今あなたに知ってもらいたいこと

著 者：オノ・ヨーコ著

発 行：幻冬舎，2009年刊

所 蔵：図書館目白 請求記号：702.16-Ono

川澄俊之先生（食物学科）の推薦のことば：誰もが知っている著名な方で、特に平和運動等に関わっていらっしやいます。本書はとても易しい言葉で語りかけていて、また、全118ページと決して厚い本でもありません。人生、行動、考え方、家庭のこと、仕事のこと等について、著者なりの生き方・考え方が飾らない言葉で語られています。さらりさらりと読み進めることができるのですが、なぜか心に残る語り口です。ああ、こういう人生もあるのだな!? さて、私は？読後に不思議な爽快感が感じられる好著です。



③書 名：東アジアの家父長制—ジェンダーの比較社会学

著 者：瀬地山角著

発 行：勁草書房，1996年刊

所 蔵：図書館目白，図書館西生田 請求記号：367.2-Sec

篠原聡子先生（住居学科）の推薦のことば：

硬いタイトルですが、東アジアという近隣の諸国の文化の

背景を知る、一助になると思います。そこから、私たちの家族や日常、働き方、生き方を少し、外側から、少し長い時間軸でみてほしいと思います。

④書 名：花嫁はなぜ顔を隠すのか

著 者：増田美子編

発 行：悠書館，2010年刊

所 蔵：図書館目白 請求記号：385.4-Han

佐々井啓先生（被服学科）の推薦のことば：洋の東西を問わず、結婚式の衣装には、花嫁が顔を隠す場合が多い。そこには女性に対する民族の意識が表れており、女性が顔や頭、髪を隠すことは、男性社会の女性に対する規制のひとつであるといえる。このような社会的な規制が、今日でも花嫁の「角隠し」や「ヴェール」に処女性や恥じらいといった意味を受け継がせていることを明らかにしている。ぜひ本書を読んで、これらのことを考えてみてください。



⑤書 名：ワークライフバランス—実証と政策提言

著 者：山口一男著

発 行：日本経済新聞出版社，2009 年刊

所 蔵：図書館目白，図書館西生田 請求記号：366.7-Yam

首藤若菜先生（家政経済学科）の推薦のことば：

これからの日本で、仕事と家庭（もしくは私生活）が両立し、そのどちらも犠牲にしないですむ社会は、どうすれば実現できるのだろうか？本書は、精緻な実証分析にもとづき体系的な議論を展開させながら、そうした社会を達成させるための道筋を具体的に示すものである。本書は、本格的な実証分析を含む学術的研究書であるため、学部学生にとっては、若干難しいと感じる部分があるかもしれない。関心のある章から読み進めてもらいたい。



⑥書 名：ジェンダーで読む 愛・性・家族

著 者：岩淵宏子，長谷川啓編

発 行：東京堂出版，2006 年刊

所 蔵：図書館目白，図書館西生田 請求記号：910.26-Jen

倉田宏子先生（日本文学科）の推薦のことば：

日本の近現代小説をフェミニズムやジェンダーの視点から読み解いた書。〈愛&性〉〈家族〉〈性暴力〉の三部構成で、作品を時代順に配列して解説を付しており、日本の近現代社会における男女の関係構造の変遷を、性役割やセクシュアリティ、家族のあり方や性暴力を通して解明しています。小説を読む



醍醐味を体感できると同時に、私たちを取り巻く身近で切実な問題を掘り下げる一助となるでしょう。

⑦書 名：ある女性天文学者の生涯—私の娘ベアトリス・ティンズリーの手紙（市民科学ブックス 6）

著 者：エドワード・ヒル著 古川路明，古川信子訳

発 行：七つ森書館，2004 年刊

所 蔵：図書館目白 請求記号：289.3-Tin

濱部勝先生（数物科学科）推薦のことば：

残念ながら天文学に詳しくない人の翻訳であるため、天文学に関する記述には誤りが多いのですが、夭折した非凡な天才女性天文学者のひたむきな生き方に感動しました。彼女の学問への情熱と努力，趣味への没頭，社会問題に対する関心と対応の仕方など，何事にも真摯に取り組んだ姿勢の真似はなかなか難しいと思いますが，若い人たちにはよい刺激になるのではないかと思います。



⑧書 名：生命に仕組まれた遺伝子のいたずら
（東京大学超人気講義録 file 2）

著 者：石浦章一著

発 行：羊土社，2006 年刊

所 蔵：図書館目白 請求記号：467.2-Ish

金子堯子先生（物質生物科学科）の推薦のことば：

この本で扱われる内容，「相手の心は読めるのか？」，「生命が初めて見た色は？」「長寿の遺伝子とは？」は誰もが持つ生命についての身近な疑問です。それらを遺伝子の視点から楽しく解き明かしていきます。この本をきっかけに女性である貴女が，さらに生命について深めてほしいと願います。



（現代女性とキャリア連携専攻 2010 年度委員会作成）